

## Introduction of works



## Cat series

キャット シリーズ

### 【 素 材 】

上左：サファイヤ、10金ホワイトゴールド  
上右：ルビー、10金イエローゴールド  
下：ローズクォーツ、10金ピンクゴールド

### 【 サイズ 】

上：縦15mm × 横15mm × 高2mm  
下：縦20~15mm × 横8~12mm × 高4mm



## 【 Cat series 】

松本 尚美

最近、世代を問わず人気を集めていて、私も大好きな猫モチーフを小さなジュエリーで表現してみました。可愛くなりすぎず大人の女性がさりげなく付けられるジュエリーを目指しました。

デザイン画で描いたものを金属や石を使って実際の形にするのは、難しいんです。目や耳、鼻など、ほんの少しの角度の違いで表情が全く違って違う動物にも見えてしまうし。猫らしい雰囲気に仕上げるため、何度も職人さんと打合せを繰り返して試行錯誤をくり返しました。



## 山梨ジュエリーミュージアム

山梨県甲府市丸の内1-6-1 山梨県防災新館1階  
<http://www.pref.yamanashi.jp/yjm/>

開館時間：10:00~17:30(最終入館17:00)

休館日：火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始、  
その他、臨時に開館・休館することがあります。

入館料：無料

駐車場：92台 山梨県防災新館地下有料駐車場(来館者は1時間無料)

ジュエリーデザイナー

# 松本 尚美

## Vol. 11

2017年9月発行

craftsman jewelry file.11  
naomi matsumoto

craftsman jewelry

2017 September

山梨ジュエリーミュージアム発行



たんです。

マネージメント、デザイン、宝石研磨、貴金属加工等々、基礎的な事を全てを学んで卒業後はどういう方向にも進める体制でした。他校に比べると規模が小さいので先生達との距離も近く、それが自分に合ってると思ったんです。

### 学んだこと全てを糧にして、 目指すのは トータルなジュエリーづくり

学んでいくうちに山梨県ほど職人さんとの距離が近く、県のバックアップもあって産業として成立っている場所は珍しいと分かり就職先は山梨で選びました。

就職した今の山宝という会社での肩書きは企画営業です。当社の営業はデザイン画が描け、その場でお客様とデザインを含めた話しを詰められる事が条件なので営業といっても数字を追うだけの仕事ではありません。お客様が何を求めているのか聞き出し、共感して、それに合わせて提案するトータルプロデュース的な役割なんです。

新商品の提案が決まったら、まず工場へ行って実際に職人さんとコミュニケーションを取ります。商品化にあたり、お客様の意向に添っているか、エンドユーザーが買いたくなる商品か、身に付けた時に問題が出ないか、などトータルで話し合いながら企画を進めるんです。

デザイナーとして道を極める事も大切ですが、それを誰かが繋げなければ商品にならない。繋げる役割として働ける事に喜びを感じています。

本職はジュエリーデザイナーなので、デザイン画を書くことはもちろんなのですが、他にもディスプレイやパッケージなどジュエリー総合相談窓口という感じで垣根のない仕事をしています。だからニーズがあれば常に勉強。服飾の勉強もアルバイトも無駄ではなかったかなと感じます。

目指しているのはストーリー性があって、店頭に並んだ時に販売員がそれを語りエンドユーザーまで伝わる商品。そうでないと、どんなに良い商品でも、お金を出して買うという所まで行き着かないと実感しているからです。

### ユーザーも職人も 次世代へつなぎ、 ジュエリー文化を育てたい

これからの目標として考えるのは、これは業界全体の課題でもあるんですが、顧客も職人も次世代を守り育てる事です。

ヨーロッパ、特にドイツはマイスター制度で政府が職人を守って行こうという姿勢がありますが日本では、そのような制度が少ないため、人間国宝くらいにならないと地位の確立が辛く、そうなってしまうと産業ではなく芸術。日本の産業が生き残って行



くためには時代に合わせて上手に変わって行くしかないと思うので、職人さんの貴重な技術も自分達の企画や発信力で守って行きたい。

そして若い頃から洋服選びと同じ感覚で、ジュエリーも自然と身に付けるようなジュエリー文化を育てたいです。学校で総合的に勉強をしたからこそできる事があると感じています。

消費者ニーズが厳しくなってる時代だからこそ素晴らしい技術を使った商品なら高くても買いたい、付加価値に意味を見出し、身に付ける事に喜びを感じるジュエリーを作りたいですね。

子どもの頃に手作りしたアクセサリーと同じで“誰かを喜ばせたい”という気持ちが私の原点ですから。

### ジュエリーとの出会いは 学生時代のアルバイト

もともと手を動かしたり何かを作ったりすることが好きな子どもでした。小学校は手芸部で中高生の頃にはデザイン画を描いたりビーズアクセサリーや小物を作っていましたが、それは自分のためというよりは誰かにプレゼントするものでしたね。

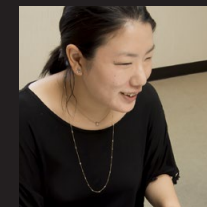
出身は高知で高校卒業後は東京の服飾専門学校に入学しました。その頃のアクセサリーパーツのお店でのアルバイトがきっかけでジュエリーに興味を湧きました。美術展やアンティークジュエリーを見に行き勉強もしましたが本格的にジュエリーを学びたいと思い、当時、宝飾の全行程を学べる唯一の公立専門学校である山梨県立宝石美術専門学校へ入学を決め

幼い頃の手作りアクセサリーを原点に  
デザインで育むジュエリー文化



craftsman jewelry

vol. 11



松本 尚美(まつもと なおみ)  
ジュエリーデザイナー

(株)山宝  
山梨県甲府市徳行2-14-8  
Tel:055-226-3646